

# 医師の目

世界保健機関（WHO）

は1978年の「コアルマータ宣言」で、プライマリケア（初期医療）の中で伝統医学が重要な役割を果たす、と宣言した。スイス・ジュネーブの本部にも、また日本が所属する西太平洋地域事務局にも伝統医学を担当する部署があり、世界で伝統医学を推進している。

欧米での鍼灸（しんきゅう）の普及には目を見張る

② 渡辺 賢治氏

方長漢部 渡辺 賢治氏  
方長漢部 渡辺 賢治氏  
方長漢部 渡辺 賢治氏



ものがある。ドイツでは、地域医療を担う総合医の4人に1人が250時間以上の講義と実技を必要とする鍼灸治療の資格を取得している。また、米国立衛生研究所（NIH）は99年に国立補完・代替医療センターを設立し、年間約300億円を投じてこの領域を研究している。

中国は昨年、鍼灸治療をユネスコの世界無形文化遺産に登録申請し、リスト入りを果たした。韓国の17世紀の医学書『東医宝鑑（とういほうかん）』は、2009年に世界記録遺産になっている。中韓両国にはいずれも政府の専門機関があり、伝統医学見直しの世界的潮流を受けて、自国の伝統医学のプレゼンスを高めようと積極的に活動しているのである。

## 伝統医学 日本も磨きを

ルとして「国家新製品」に認定、新型インフルエンザ治療に採用した。これに対し、わが国の伝統医学への取り組みは大幅に立ち遅れている。「麻黄湯が解熱に要する時間は抗インフルエンザ薬と同等」との研究がいくつかあるにもかかわらず、高価な抗インフルエンザ薬を多用し、安価で医療経済上もメリットのある漢方はほとんど使われなかった。麻黄湯を活用すれば医療費の削減効果は数十億円に上るとみられる。

ただ、インフルエンザに対する漢方薬としてはこのほかにも、麻黄附子細辛湯（まおうぶしさいしんと）、桂枝湯（けいしとう）など数多くある。個人差を重んじるのも漢方の特色で、漢方教育をさらに充実させて使いこなせる医師を増やすことも課題といえる。世界の動向に合わせようとするばかりに、自国の持つ強みをおろそかにしているわが国の姿勢と、伝統を重んじながら新しいものを食欲に取り込む中国との違いは明らかだ。国を挙げて伝統医学の振興に取り組み中韓にならない、日本も独自の医療に磨きをかける時ではないだろうか。

生活面「医療」の記事やコラムに関するご意見、情報をファクス（03・6256・2774）か電子メール（lryou@tokyo.nikkei.co.jp）でお寄せください。